

令和3年度全国学力・学力状況調査の結果について

令和3年5月27日(木)に中学校3年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の本校の結果を分析し、以下のようにまとめました。今後の改善に向けて取り組んでいきます。

□ 国語

- ◇ 「問題を解く力」については徐々にについてきているのではないかと「できる」と思えた問題に対しては力を発揮できている。
- ◇ 「適切な敬語に書き直し、適切な種類を選択する問題」の正答率が大幅に全国平均を上回った。また、「言語についての知識・理解・技能」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において正答率が高かった。
 - 敬語に関する問題の正答率は全国平均を10%以上も上回った。言語についての知識理解には定期的な繰り返し学習が不可欠である。
- ◇ 今まで継続して取り組んできた「話す・聞く」観点に関する問題への解答に対して、一定の改善が見られた。
 - 正答率が伸び悩む時期もあった分野であるが、誤答の種別をみても、府や全国との差異が前年度と比べて小さくなってきている。
- ◇ 「語句の意味」を問う問題に一定の弱さが見られる。
- ◇ 「漢字の読み」問題に対する無解答率がとても高い。
 - 漢字自体が読めなくても、文脈に即することで予測は立てられるはずである。それでも無解答が多いということは、「文章を読もうとすること」への意欲の無さが表れていると言える。それは、「机に向かうこと」延いては「筆記具を持つこと」への抵抗感に起因するものであると分析した。

【今後に向けて】

- 「解答すること、言い換えれば「間違ふこと・失敗すること」への抵抗感が、学習への意欲を低下させている。「やってみる・チャレンジする精神」「自己肯定感」を伸ばしていきたい。学習においてだけではなく、家庭での時間も含めた日常生活の中での取り組みが必要。結果に対してではなく、プロセスに対してのアプローチを強めていく関わりが学力を上げるポイントになると思われる。
- 記述式問題への書き方・答え方の指導はもちろん、的確な採点基準を示して、部分点として評価していくことで、解答意欲を高めていきたい。
- 「書く」ことを重要視していきたい。iPadの活用とうまく両立を図りながら書くことへ慣れさせていく意識が必要である。

□ 数学

- ◇ 無解答が非常に多い。[6]以降の説明を書く問題では100人以上の生徒が何も書いていない。また、最初の問題や[3]の記号問題に対しても大阪府や全国と比べ、無解答が4倍になっている。意欲的に問題に取り組めていない。
- ◇ 長文の問題は読むことをあきらめて、無解答か適当に答えている傾向があり、じっくり読んで考えることができていない。

【今後に向けて】

- 授業で記号問題を考える際には、一緒に読むなどして答える意識を持たせる。
- 1年生のうちから授業で取り組むプリント等に長文の問題を記載し、練習させていきたい。読むときはどこに注目すべきか要点を絞らせる。
- 「○○だから△△である。したがって□□。」という形で論理的に答えることに苦手意識があるため、基本問題から練習していく。
- 3年生は、10月末現在、授業で演習プリントに意欲的に取り組む姿が見られるようになってきている。今後も継続していきたい。

□ 生徒質問紙

◇ 朝食を食べていますか

質問1「朝食を食べていますか」の質問に対して、食べていると答えている生徒は国語・数学ともに高い点数をとれている。朝食を食べていないと答えている生徒は国語・数学ともに点数がとれていない。

◇ 携帯電話に関する質問

質問4「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問に対して、「守っている」と答えている生徒は、全国平均・大阪平均に比べて本校は低い数字になっている。また、「守っていない」や「約束がない」と答えている数字は本校が高くなっている。

質問5「1日当たりどれくらいの時間ゲームをしますか」に対して、4時間以上と答えている本校の生徒は40%近い割合を占めている。全国平均・大阪平均に比べてもゲームをする時間は非常に長いと言える。4時間以上ゲームをすると答えている生徒の国語・数学の得点の平均を見ても低くなっていることがわかる。

これらのアンケート結果から、携帯電話やスマートフォン、ゲームの利用時間が長く、学習にも影響が出ていると考えられる。